

## 2009年8月11日駿河湾の地震について(地震波速度構造)

- ・ 地震波速度構造と相似地震活動から推定されるプレート境界上面よりも約10km深いところで発生
- ・ 本震はフィリピン海プレート内の低速度領域と高速度領域の境界付近の高速度領域内で発生

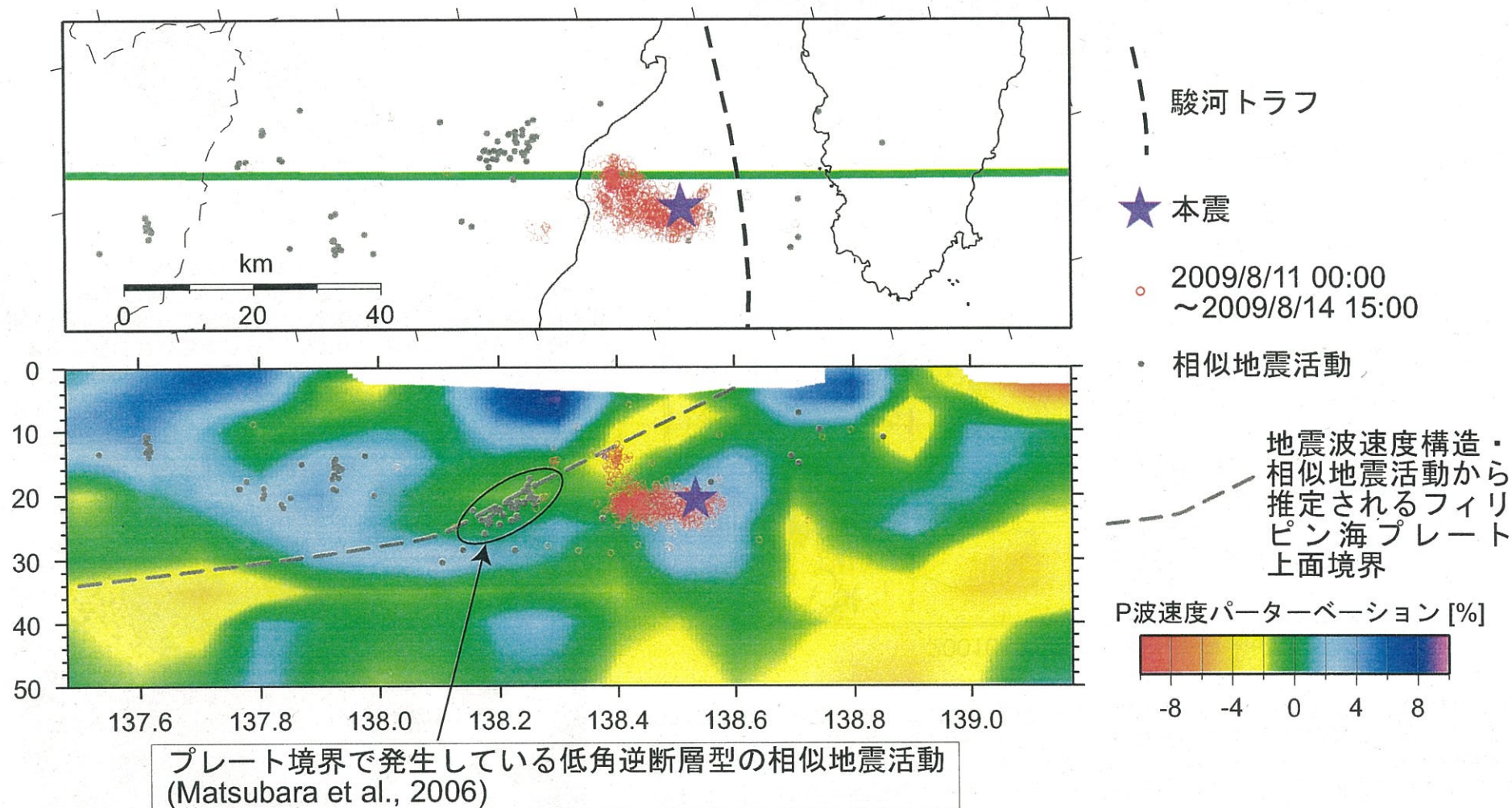


図 3次元地震波速度構造と余震分布・相似地震分布

駿河トラフから沈み込むフィリピン海プレート最上部の海洋地殻に相当する低速度層イメージングされている (Matsubara et al., 2008)。また、静岡市・藤枝市付近の深さ約20kmでは、低角逆断層型の相似地震が発生しており破線のようにプレート境界を推定することが可能である。2009年8月の地震の震源位置は、このように推定されるフィリピン海プレート上面境界から約10km深く、低速度領域と高速度領域の境界付近の高速度域内に位置する。余震活動もプレート境界から5~10km程度深い領域で発生している。